

## PART ① 敏腕コンサルタントが語る

# 20スロ営業と同じ姿勢を貫く

ダイコク電機のDK-SS-デー  
タなどによれば、全国のパチスロ設  
置台数のうち、10スロの割合は、ま  
だ4月上旬時点で約2%とされてい  
る。しかし、少しずつではあるが、  
着実に増えているのは確かで、特に  
昨年秋季以降、導入店舗が目立つよう  
になってきた。

そこで、本章では、パチスロ営業  
に精通したコンサルタント3人（ア  
テインの糸柳氏、PSTオータルサ  
ポートの北野氏、NSPドクターの  
原島氏）に、10スロの現状と成功の  
ポイントを語ってもらった。

### 経済的に20スロを断念した コアなファンが10スロに

まず、三氏が、10スロが広がりがつ  
つある最大の理由に挙げるのは「コ  
イン単価の上昇」だ。原島氏は話す。

「昨年あたりから高純増をうたい  
文句とするART機が相次いで登場  
するようになりましたが、それと並  
行してコイン単価も上昇。現在、20  
スロの平均コイン単価は2・7〜2・  
8円だとされています。4号機時

代に比べれば低いとはいえないものの、  
ユーザーにはきついスペックが増え  
てきた。ましてや、社会人の小遣い  
は年々、減っているわけですからね。  
そうした中、10スロならば、コイン  
単価が現在1・5円弱。20スロの半  
分のお金で遊べます。10スロは時代  
に合った営業手法なのです」

また、北野氏は「今のパチスロが、  
ユーザーにとって経済的にしんどく  
なっているのではないかとすること  
は、『押忍！番長2』と『北斗の拳  
世紀末救世主伝説』が登場した昨年  
末のマーケティング調査で、実は、  
それほどパチスロ人口が増えていな  
かったことから感じていました」  
とコメント。次のように話す。

「両機種種の市場導入直後に、当社  
が各地で調査したところ、導入前の  
5〜10%しか、パチスロ人口が増え  
ていなかったんです。調査時期が、  
普通に営業していても集客が見込め  
る年末年始商戦期だったことを考え  
ると、両機種種の市場開拓効果は期待  
したほどではなかったことに…。世  
間の懐具合と反比例するようにコ  
イン単価が上昇していることは、以



■ アテイン代表取締役 糸柳達成氏

「10スロは、今の20スロについていけなくなつ  
たファンはもとより、スリープ層の掘り起こ  
しも期待できる。未導入地区も多い中、現状  
をはるかに上回る潜在ニーズを感じます」

前から気にしていましたからね。い  
よいよ、ユーザーがついてこれなく  
なってきたのかと思いました」

そして、実際に、10スロ導入店を  
見ても、本来ならば20スロで話題の

ART機などを楽しみたいのだけ  
ども、どうしても経済的についてい  
けない人たちが集まっていると指  
摘。「同じ低貸しでも、5スロや2  
スロにはない傾向です」と述べる。

## ホールも容易に利益を確保 台粗利3000円が可能に

一方、「現在の10スロのコイン単価だと、ホールも利益が取りやすい」と話すのは糸柳氏。同氏は「以前の5号機はコイン単価が低すぎて、低貸しでは売上が立ちにくいとされてきました。当然、粗利も確保できず、新台を導入しても機械代を回収するのが容易ではありませんでしたが、コイン単価の上昇によって、それが可能となってきた。そのため、大手と違う戦略を模索する中小ホールの導入事例が目立ちます」と話す。

具体的には、今のパチスロで目安とされる台粗利3000円が、10スロでは確保しやすくなるというのが三氏共通の見解だ。

北野氏は「オススメは稼働6000枚前後で、玉利45銭前後、台粗利2700円前後の20スロホールですね。これが10スロに転じると、稼働1万枚で、玉利30銭から35銭、台粗利3000円から3500円が容易に確保できるようになるのです」と説明する。

糸柳氏も、DKISSデータなどで、20スロの平均稼働が1万枚強であるのに対して、10スロが

9400枚前後と徐々に追いついてきている現状を引用しながら解説。

「10スロのコイン単価を1:5円として、1万枚稼働で台売上が1万5000円。これで台粗利3000円を取っても、利益率は20%にとどまるので、ユーザーに違和感を抱かせることなく、営業が成り立つというのが10スロの魅力なんです。そして、台粗利が約3000円あれば、100日前後で機械代が償却できる。それなりに新台も購入できるという、好循環につながっていくわけです」と話す。

つまり、「10スロはホールが利益を確保できるだけでなく、ファンも適度な投資金額で新台が楽しめる。ホール・ファンの双方を幸せにするんです」と北野氏。そして、5スロ客をステップアップさせる上でも、不可欠な営業手法だというのだ。

## 20スロとの併設は 基本的に難しい

もつとも、ただ単に10スロを導入しただけで、目安とされる1万枚稼働、台粗利3000円を確保できるわけではない。そこで、三氏が異口同音に強調するのが、「10スロは、20スロ営業と同じ感覚で臨まないと失敗する」ということだ。

先にも述べたように、10スロのメインユーザーは「本来ならば20ス

ロで、今のパチスロならではの射幸性と勝負したい」と思っている人たちだとされている。

したがって、20スロとの併設は客の食い合いになるとして、糸柳・原島両氏は、「導入するならば、パチスロ全台10スロか、10スロと5スロ、2スロなどとの併設にすべき」と提案する。

北野氏も「20スロの稼働が8000枚前後で伸び悩む中、玉利35銭前後で還元に努めるホールであれば、20スロとの併設も…。例えばパチスロ150台のうち50台を10スロにすると、20スロで圧縮効果が発揮され、10スロとでも1万枚稼働させることが可能です」としつつ、「でも、これは例外。基本的には、20スロとの併設は勧めません」と話す。

## 20スロで人気のART機が 10スロでも主力機になる

そして、機種構成的には、5スロや2スロのような完全バラエティー化は絶対に避けるべきだとも、三氏は断言。20スロで人気の「押忍!番長2」や「北斗の拳 世紀末救世主伝説」などがそのまま10スロでも主力・準主力機になるとして、「それらの台は新台とでもども、ある程度の台数を用意しなければならぬ」と説く。

ちなみに、『ミリオンゴッド』も10スロでは玉単価が20スロのジャグ



PS1-Talサポート代表取締役 北野良氏

「10スロは、ホール・ファンの双方がハッピーになれる営業手法です。導入ホールの方々には、常に「お客さまありき」を念頭に運用していただきたいと思います」

ラー並みに下がり、安定した稼働を維持します」と言うのは原島氏。一方、糸柳氏は「モンスターハンター」を10スロの一台として推奨する。

『「モンスターハンター」は、ART中の演出がとても面白いのに、設定1・2ではなかなかそのARTに入らない。しかも、全体的にもからいスペックなので、ホールの方々も、もっと高設定で使っているのに、それをしないホールが多いんです。それで結果的に、客を逃してしまっている。でも、それが10スロだと、思い切って同機の魅力をアピールできると思うんですね」

実際、20スロ・10スロ・5スロをフロア別に併設していた、ある都内の150台弱のパチスロ専門店は、1階の20スロコーナー約50台を10スロとしてリニューアル。そのほとんどを「モンスターハンター」に切り替



10スロの平均コイン単価は現在、1.5枚弱だとされている

えて、連日、盛況を博している。

もつとも、このように10スロ推奨機がART機ばかりであるのに対して、Aタイプ系のわかりやすさを売りにした機種を主力・準主力機に据えることについては、三氏とも否定的。北野氏は「10スロ客が求めるのは『遊べる』遊技機ではない」と明言する。

### 新台の地域最速導入より最終的な台数が重要

さらに、原島氏は、10スロ導入店がほかにない商圏の場合、新台の地域最速導入にこだわる必要はあまりない、ともコメント。「最終的に、ある程度の台数をそろえることができるのならば、多少導入が遅れても問題ない。市場の評価を見つつ、あとから中古市場を通じて増台するというやり方をとつても、『10スロでも新台が打てる店』と印象づけることはできるはずですよ」と述べる。

糸柳氏も「それに、今、中古機市場には10スロ営業への追い風が吹いています」と話す。

「パチスロは、各社から新台がリリースされるスピードが非常に短くなっていきます。それが機種寿命の短命化や中古機価格の早期下落の要因ともなっているのですが、見方を変えると、20スロで、そこそこの実績を残した機種が、以前よりも調達



■ NSDドクター常務 原島健司氏

「10スロとは、中小ホールが大手とは違う土俵で戦うための『攻めの戦略』。単なる低貸しではないという、10スロの本質を導入ホールの方々には理解していただきたいですね」

しやすくなったとも言える。中古機市場の動向を、今まで以上に細かくチェックしてほしいですね」とした。

### 高設定をどこまで入れるか分かれる専門家の意見

一方、三氏の意見が微妙に分かれたのは、設定について。まず、北野氏は「もとより、10スロ導入当初の2カ月間は我慢して、できるだけ高設定を入れる努力をしなければいけません」としつつ、「正直、10スロで、高設定を積極的に入れるのは難しい。入れると、適正な玉利の確保が難し

くなってしまうので」と語る。原島氏も「玉利30銭、台粗利3000円を基準に考えれば、当然、ベースは上げられない。そう簡単に高設定を入れられるものではないですね」と説明。ただ、両氏とも、10スロは客滞在率がアップするとして、「それほど高設定を入れなくても、遊技機の出玉の波は伝えられるはず」との見解を示す。

それに対して、糸柳氏は「10スロに流れてくるのは、本来ならば20スロを打ちたいと思っている人たちで、彼らコアなファンが求めるのは常に新台と出玉感、すなわち高設定台で

あることを忘れてはいけません」と強調。「そのうちの新台については、やはり大手の20スロホールほど用意できないかもしれない。その上、もし高設定も入れないならば、ユーザーから早々に見切られてしまうのではないだろうか」と力説する。

もともと、その糸柳氏も「損益分岐割数が10割のまま、10スロで高設定を積極的に入れるのは、確かになかなか難しい」とも吐露。「本当は、10スロは10スロでも、12・5円貸しの10円返しの10スロ営業ができれば、非常に余裕のある営業が可能なのですが…」との私見を述べる。

## 10スロだけの秘策はない 導入前に自店の原点確認を

そのほか、販促についても、「倍遊べる」など、あまり低貸しを強調

しすぎるとうまくいかないというのが三氏の見解。あくまでも20スロの延長線上で10スロをとらえてほしいと繰り返す。

そして、そのことを踏まえた上で、糸柳氏は、独自の販促が打ちづらくなったホールの現状に言及。「しかし、やりようはあるはず。実際、高稼働のホールの方々はさまざまな創意工夫を凝らしています。それは10スロにかぎらず、20スロや5スロでも同じこと。自店の10スロにかける思いを、さまざまなアイデアでアピールほしいと思います」と述べる。

一方、北野氏は「10スロの導入・販促の前に、機種特性をもっと勉強してほしい」と助言。「例えば、設定1と2では、設定1の方が断然得だと思っているホール関係者がまだまだ多い。大当たり確率ばかりにとらわれていて、ARTのセット数

の上乗せ確率などを勉強していいからです。これでは20スロよりも緻密な機械運用が求められる10スロをやっていきません」と話す。

先の糸柳氏のコメントではないが、それは20スロでも5スロでも言えること。10スロだからといって、特に秘策があるわけではない、ということだ。

そして、「その意味では、自店がどういう店作りを目指すのか、という原点に立ち返ることが必要ではないでしょうか」と言うのは原島氏。同氏は「最近、すぐにコンセプトがぶれてしまうホールが増えていきます。それでは、お客さまから信頼される店作りは不可能です。これから10スロの導入を検討するホールの方々は、その前に自店の目指す方向性をあらためて確認していただきたいと思います」と語った。

